

# 6 認定こども園Kidsまゆみ（大阪府和泉市）



## 学級編成（幼稚園部6名）

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1クラス 26名	1クラス 33名	1クラス 33名	1クラス 35名	1クラス 35名	1クラス 35名	5クラス 197名

## 職員

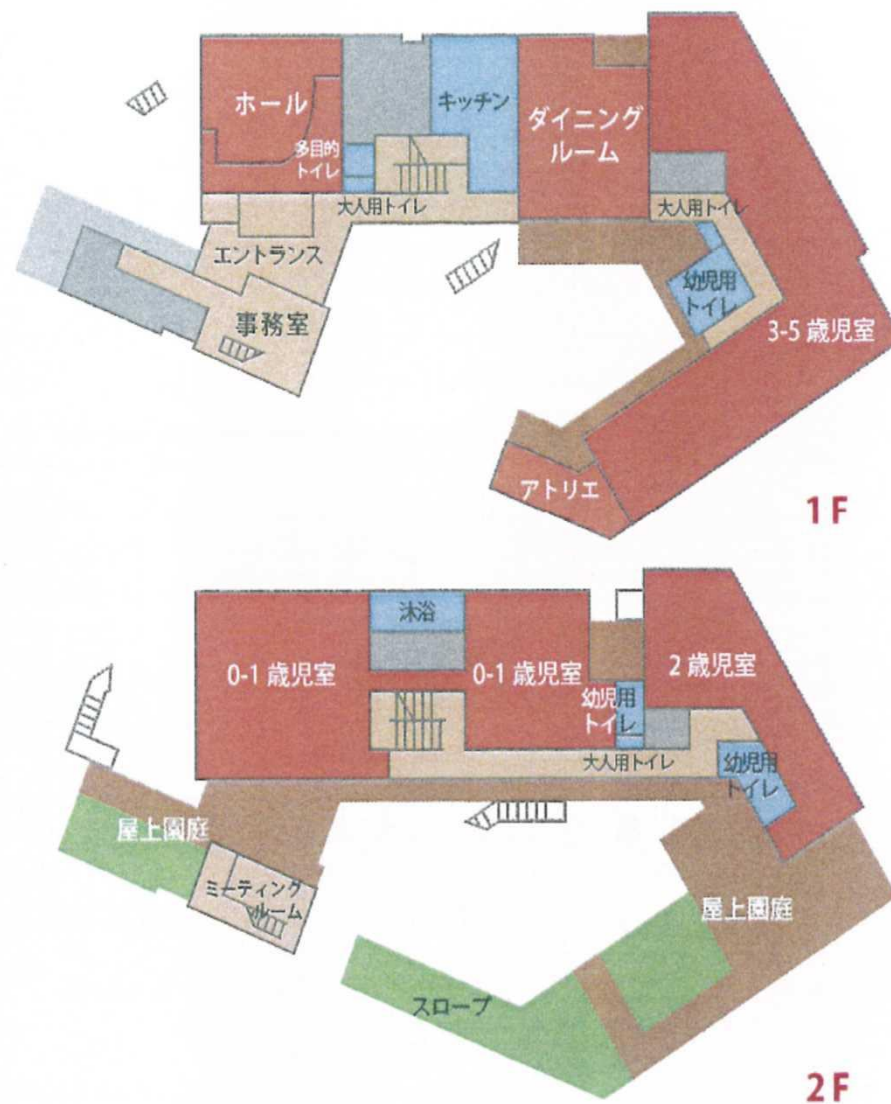
園長	教頭	主管保育教諭	保育教諭	調理員	事務	警備	栄養士、 看護師、用務	園医、歯科医、 眼科医、薬剤師
1名	1名	2名	29名	3名	2名	4名	各1名	各1名

## 保育目標

- 子ども自身が自ら学ぶ力をつけること
- 自己肯定感を持つこと
- コミュニケーション力を持つこと

# 施設概要

S造2階建 延べ1,224m<sup>2</sup>



# 外部・園庭



▲起伏に富んだ中庭



▲築山とともに設置されたトンネル



▲起伏を利用した滑り台



▲中庭に設置された遊具



▲屋上庭園、スロープを通じて中庭と一体となっている



▲ビオトープ



▲エントランス前のスペースに設置された遊具

# 内部



▲エントランスは壁一面が黒板仕様



▲保育室①



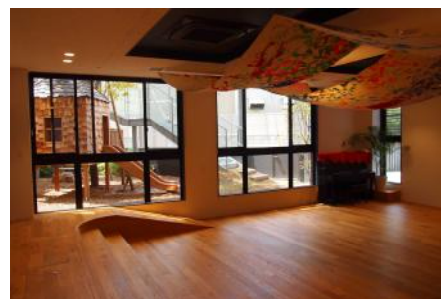
▲保育室②



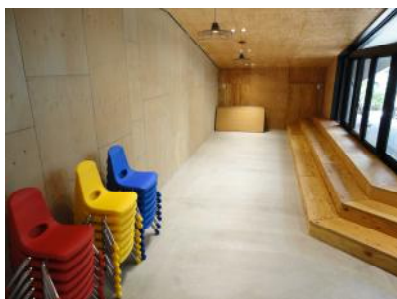
▲保育室③



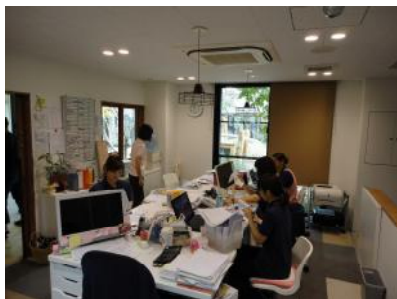
▲オープンキッチンのダイニングルーム、建具を開放することによりテラスと一体になる



▲多目的ホール、段差は幼児用イス 兼 大人用パイプイス収納BOX



▲外部スロープ下に設けられたアトリエ、段差部分には絵の具などの教材が収納されている



▲事務室



▲トイレ

## 委員コメント(基礎情報)

- ・都市型(敷地面積が限定される)での保育所が認定こども園である。幼稚園部門は各学年2人。
- ・1号認定(幼稚園児)と2号認定(3-5歳の保育園児)との時間差をあまりつけないよう、1号の子どもも9:30~15:30の保育時間である。
- ・保育園が母体なので、自園調理である。
- ・講師を入れての保育(体育、スイミング、音楽、英語、学研)がある。保育所としての地域の要請かもしれない。
- ・園の名前の由来ともなったシンボルツリー「まゆみ」の木がある。子どもにとっては記憶に残るものであろう。
- ・1982年社会福祉法人いずみまゆみ保育園として開設。120名定員。
- ・1998年隣地に別棟整備。(子育て支援事業として一部使用)
- ・2016年全面改築により新築整備し幼保連携型認定こども園kidsまゆみ となる。
- ・0~6歳利用で幼稚園部分(内1号認定子ども6名)
- ・お誕生を月齢で行い 前後2ヶ月は保護者の保育参観を促している。

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・限られた敷地の中での、子どもの体力向上を考えた結果、高低差をつけた広いスロープを設置し、さまざまな方向から2階や園庭に行けるようになっている。1歳児でもスロープの上り下りをするそうである。屋上庭園を利用して、2階の0-2歳児もすぐ外へ出て遊べるようになっている。
- ・保育室内にも、高低差やロープやネットなどで上り下りできる仕掛けがあって、幼児が知らず知らずに身体を動かす工夫が見られる。
- ・まだ、うまく使いこなしていないとのことであるが、アトリエ空間があるので、活用出来たら面白いと思う。
- ・ホールの段差が座席になるような作りは、保育者の椅子出し、椅子並べの苦労がなくなったとのこと、非常に素晴らしい工夫だと思う。また、最上段には大人用のパイプいすが収納できる床下収納庫があり、保護者会や入園式など、大人の多い時にはさっと設置できる。
- ・玄関わきの壁が一面黒板になっていたり、壁にマグネットが付けられるようになっていたり、掲示に便利に使えるようである。
- ・保育室の名前が布のイメージで作られており、近隣が昔から伝統的な織物の町であったことに由来している。これも、地域との結びつきを感じさせる。
- ・卒園生の水田の一角を借りて、イネの栽培もしている。地域とのつながりの例である。
- ・エントランス前にツリーハウスと園名由来のまゆみを植樹し心地よく象徴的な空間としている。
- ・園庭はスロープを含めて芝生と砂場で構成され、屋上園庭を効果的に配置され子どもの運動場面を保障している。
- ・食事室の園庭側の開口部は全面開閉を可能として、テラス空間となり屋外と屋内の親和性を高めている。

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・備え付け家具と移動式家具を有効に配置し、生活とあそび環境の可塑性を可能にしている。
- ・学齢毎に視認性の高い保育者の作業スペースを確保し、午睡中の事務作業や教材準備に有効に機能している。
- ・ホールはスキップフロアーで子どもの腰掛をコロセウム型に確保しながら、椅子などの収納スペースとなっている。教材室も開口部を広くとることで大型の遊具の出し入れも容易にしている。
- ・スロープ下をアトリエとして配置するなど細かなスペースを居室やあそび場として有効に活用している。
- ・相談室を設け、保護者の相談時に対応している。

# 7 はまようちえん（兵庫県尼崎市）



## 学級編成

0歳児	1歳児	2歳児	3・4・5歳児						計	
1クラス	1クラス	1クラス	7クラス						10クラス	
3名	12名	15名	27名	26名	27名	28名	27名	28名	28名	221名

## 職員

園長	教頭	主管保育教諭	保育教諭	調理員	事務	警備	栄養士、 看護師、用務	園医、歯科医、 眼科医、薬剤師
1名	1名	1名	27名	10名	5名	0名	1名	4名

## 教育目標

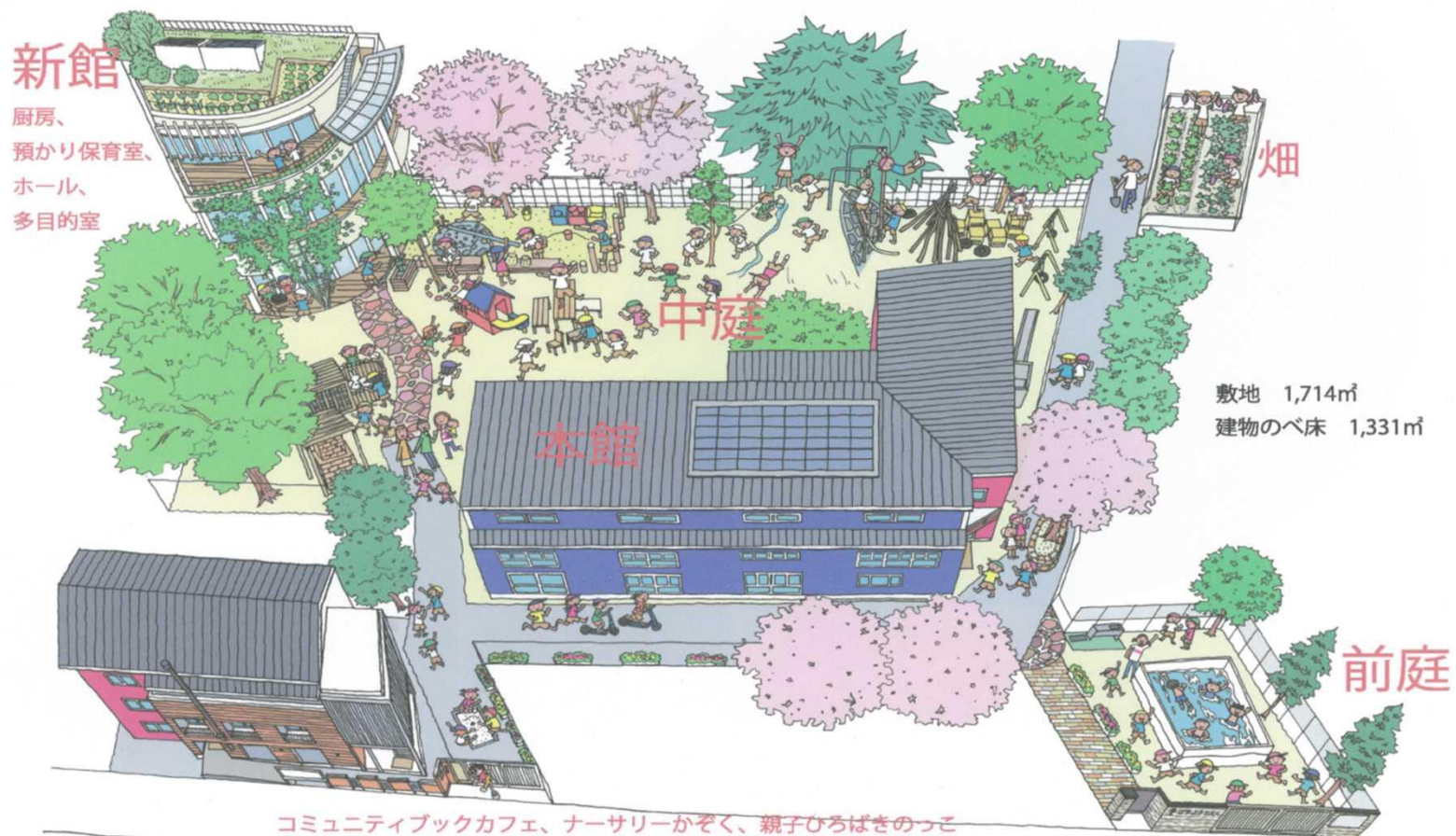
たくましく生活できる子ども みんなと仲良く遊べる子ども 心豊かな創造性を育てる

## 教育理念

わたしになる。ぼくになる。



# 施設概要



幼保連携型認定こども園はまようちえん全体図

# 外部・園庭



▲起伏に富んだ中庭



▲樹木やテントで適度な日よげが設けられている



▲起伏を生かした遊具



▲遊具



▲階段下に設けられた砂場



▲新館のエントランス、1階は厨房になっている



▲手作りのピザ釜

# 内部



▲廊下から保育室への入口は  
クラスごとになっている



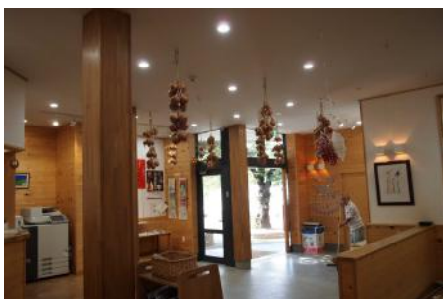
▲親子広場



▲保育室は3室が一体となっている



▲読書&喫茶スペース、ルールを  
設けて一般開放も行っている



▲エントランス、ぶら下がっている  
のはタマネギ



▲トイレ



▲新館の最上階にある多目的室、テラスと一体に使用可能



## 委員コメント(基礎情報)

- ・現園長が先代から引き継いだときに保育を改革したそうで、園庭に木を植え、築山を作り、園舎の建て替え、水路を埋めて回遊出来るようになど整備していったとのことである。まずは、保育理念から園舎・園庭が形になるという事である。
- ・幼保連携型認定こども園として、幼(200名)・保(30名)の他にも、子育て支援の親子広場の部屋が常設されており、幼稚園保護者もボランティアとして参加している。ノンプログラム型で、保育者が何かしてくれるのではなく、利用者が自由に遊んだり、くつろいだりする場所である。
- ・コミュニティ・カフェ&ブックスがあり、本格的な焙煎からのコーヒー、ビールを飲みながら本が読める。1週間に1回開店。ここも、幼稚園保護者がボランティアで参加。ただ、町のカフェとは違って、皆でコミュニティを作っていこうという趣旨のため、「おきて」があり、利用者には責任を持った行動が要求される。月1回は「はまバル」として老人会が開かれる。
- ・園庭も卒園生、在園生に貸し出しされる。
- ・理事長が広告業界出身で、園のパンフレット、マガジンなどで園の理念をよく伝えている。
- ・1954年創設。1975年園舎全面改築。
- ・2005年新館(厨房、ホール、ワークショップスペース)新築整備。2015年全面改築及び保育棟新築整備し幼保連携型認定こども園に移行する。
- ・保育棟の1階はコミュニティカフェ兼図書館となっており、有志の保護者などにより運営され、さらには3階には親子ひろばを常設し地域の子育て支援の拠点となっている。
- ・地域の保護者対象の子育てサークルやワークショップ、講演会などを積極的に実施している。

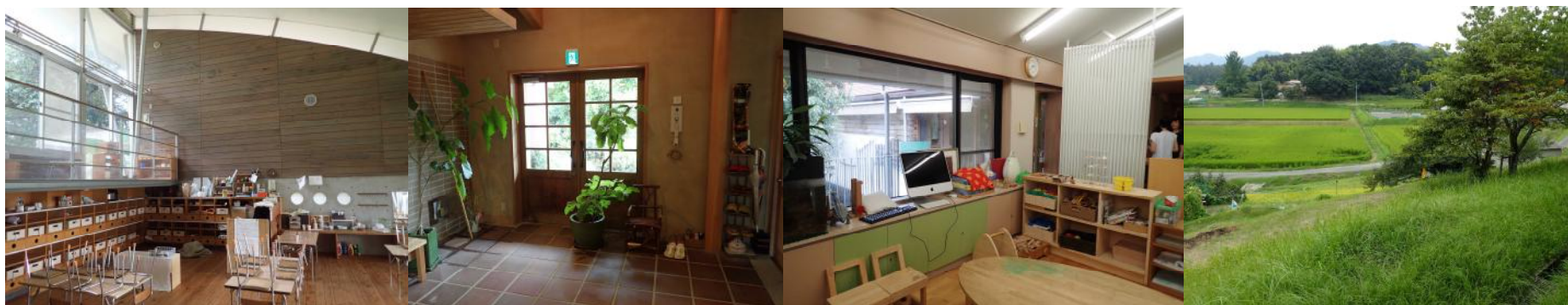
## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・ミーティングルームの壁は一面ホワイトボードで、話し合いがスムーズに進む工夫がされている。
- ・受付はナースステーションをイメージして、半円形である。
- ・管理栄養士を置いた自園調理の和食メインの給食である。モーニングテラスキッチンで、管理栄養士が当日使う野菜などの説明をする出前トークがある。
- ・新館は下から、厨房、預かり保育室、2階ホール、3階ワークショップ用の多目的室、屋上は菜園になっている。
- ・保育室は、間をロールカーテンで仕切るだけのオープンなスタイルで、縦割り保育である。バディを決めて、年上の子どもが年下の子どもの世話をする。
- ・室内も土足のままで、子どもは裸足で行ったり来たりしている。子どもが一日の終わりに自分の靴を探して「どこで靴を脱いだか」を考えると、自然と自分の今日の遊びの軌跡をたどる(=振り返り)になる。
- ・園庭は起伏のある形状と雨水を利用した手漕ぎポンプを活用したあそび場を中心に構成して固定遊具は設置していない。
- ・1階保育室のテラスが屋内外の接面となり、活動の連続性を担保している。
- ・平面の前庭でプールや球技などの粗大運動を保障し、畑やピザ窯が食育に効果を発揮している。
- ・本館は木造の耐火構造であるため柱や構造壁があるが、それがアクセントや小空間をつくり環境構成に活かされている。

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・保育室は2室ないし3室がオープンスペースとなっており(ロールスクリーンなどで可動式で間仕切可)、活動の展開と家族(クラス)間の接続を可能にしている。
- ・通路側の低めの窓が、展示スペースとなり豊かな空間を構成している。
- ・保護者が地域の親が利用できるスペースが園舎全体の相当部分を構成し、地域の子育て支援や在園児、卒園児の保護者支援が教育活動の主軸をなしていることを象徴している。
- ・コミュニティーカフェ兼図書館が情報発信にとどまらず双方向の交流を実現している。
- ・通園バスは使用せず、徒歩と自転車通園のみである。JR尼崎駅のほど近くに位置している。

# 8 認定こども園さざなみの森(広島県東広島市)



## 学級編成

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
1クラス 3名	1クラス 12名	1クラス 15名	4クラス 79名	3クラス 81名	3クラス 77名	13クラス 267名

保育目標 自ら考え、自ら動き、自ら育つ

### 主な特徴

- ・ 昔ながらの田園の広がる里山環境での活動や地形を生かした園庭
- ・ 遊びが中心の保育

# 施設概要

開園年月 認定こども園  
さざなみの森 平成23.4  
さざなみ幼稚園 昭和54.4  
さざなみ保育園 平成23.4

施設面積 2,039.70㎡  
光の棟 788.85㎡  
風の棟 352.35㎡  
響の棟 446.90㎡  
水の棟 334.46㎡  
吹の棟 117.14㎡





# 水の棟



▲職員が集まるキッチン



▲保護者も集まれる子育て支援室



▲ギャラリー



▲可動式の保健室



▲事務スペース



▲事務室

# 光の棟・デッキテラス



▲デッキテラスから見る園庭



▲デッキテラス



▲デッキテラスも子どもが過ごす日常空間



▲保育室の中にある休憩スペース



▲保育室に隣接する小さなスペース



▲保育室

# 外部・園庭



▲豊かな周辺環境



▲様々な遊び道具が配置された園庭



▲小屋



▲先代園長お手製の遊具



▲自然の起伏を生かした園庭



▲使わない船も園庭に配置

# 風の棟



▲入口



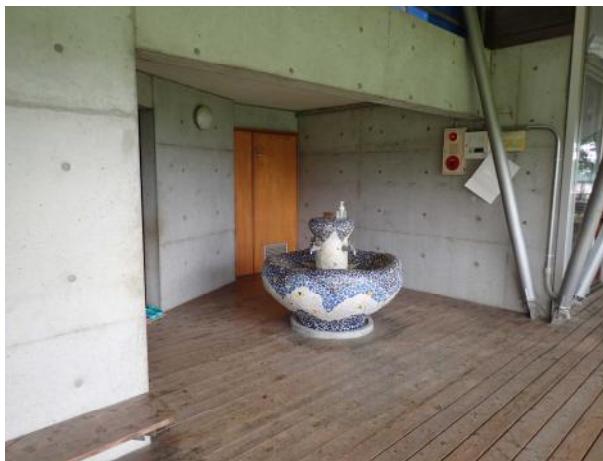
▲地形の起伏を生かした教室空間



▲舞台として使用できるプレイデッキ



▲保育室



▲トイレ前の手洗い場



▲豊かな自然に面した半屋外空間

# 響の棟・吹の棟



▲響の棟



▲下校前に全ての子どもが集まる大空間



▲舞台



▲木の葉の形を模した吹の棟



▲小スペース



▲保育室

## 委員コメント(基礎情報)

- ・8600㎡ の園舎敷地1979年から現在地で幼稚園 2011年に認定子ども園に このまちとして第一号  
方針:里山保育 園舎、園庭、里山の周辺環境の三点セットで保育の環境 「さざなみ」のようにキラキラ輝く「自ら考え、自ら動き、自ら育つ」、「啐啄同時」の子ども力を発揮できる大人の支援、生きる力の「根」を育てる、一人一人の子どもを育ちを支える環境(保育者も含む)、「知る」「感じる」「体験する」の遊びが中心の保育
- ・保育園タイプ 7:15-18:15 延長19:15 短時間タイプ 15:15まで  
幼稚園タイプ 9:15(7:15)-14:15 (18:15) ( )は延長保育
- ・難波元實園長 も建築(法政大学)出身で建築に造詣が深い

## 委員コメント（教育面や施設面の工夫・取組）

- ・子どもをとりまく環境の質、母子分離を促し、子ども自らの発達の連続性を得る環境 大きな家として 家の連続性
- ・保護者の学びや交流の場、カフェのような子育て支援室、ギャラリーのある水の棟。中間領域の空間 中間領域の人（保育士以外にコーディネーターを設ける）
- ・里山のエッジを園地 起伏を生かした、園舎・園地から見える里山風景が原風景 園舎（光の棟）は地形に沿って建築（静岡にある仙田満設計の野中保育園を参考）  
あべまき広場、水田での米づくり、水路の川遊び、畑づくり、ブルーベリー栽培、地域の協力者による伝統行事、近隣の農家のヤギやニワトリとの触れ合い、自然探検、というように園から連続して自然豊かな周辺の里山環境を活用  
現役引退した大工さんを雇用し、つねに補修や何かを作っている場面に子どもの関心を誘引
- ・子どものみならず保護者も周辺の協力者も創造に巻き込む「場づくり」「施設づくり」「機会づくり」
- ・保護者自身も子ども中心の輪の中に子どもの主体的な成長を支援する新しい保護者会として学びと交流の場を設けて家庭と園の協働で子どもの成長を支援する

# 9 福岡教育大学附属幼稚園 (福岡県宗像市)



## 学級編成

0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	計
—	—	—	1クラス 20名	1クラス 16名	1クラス 14名	3クラス 50名

## 職員

園長	副園長	教諭	養護教諭、 任期付教諭	非常勤講師	事務 補佐員	用務員	学校医	学校歯科医
1名	1名	4名	1名	3名	1名	0名	2名	1名

## 教育目標

豊かな心をもち、自己を十分に発揮し、心身の調和のとれた発達と生きる力の基礎を身につけた  
幼児の育成

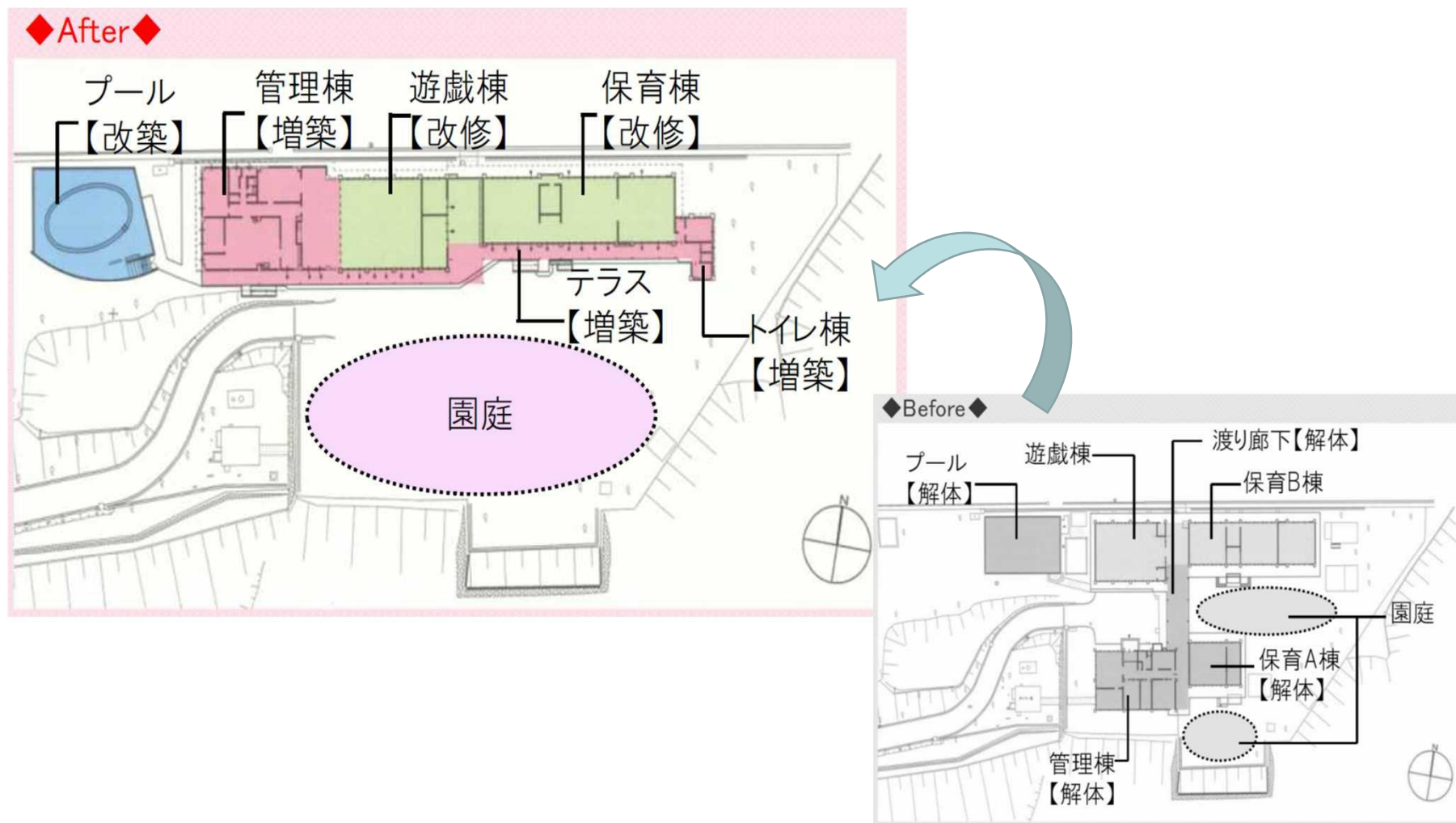
### めざす幼児像

基本的生活習慣を身につけた幼児	表現力のある幼児
思いやりのある幼児	創造力の豊かな幼児
最後まで頑張る幼児	探究心や思考力の豊かな幼児



# 施設概要

昭和47・59年築、平成25年改修・増改築  
RC造 1階建  
延べ655.6㎡



# 外部・園庭



▲園舎と園庭をつなぐテラス



▲管理棟を撤去して大幅に拡張された園庭



▲隣接するグラウンド、幼稚園も利用可能



▲プール

# 内部



▲半屋外空間のエントランス、向かって  
右側が図書コーナー、左側が保育室



▲保育室から独立して設けられた  
図書コーナー



▲幼児用トイレ



▲保育室、隣室とつながっている



▲遊戯室と多目的室



▲遊戯室と多目的室を隔てる可動式間仕切り、  
開放すると部屋を一体的に使用可能